

神高SSH通信 2014

●SSH課題研究中間発表会 報告(速報)

平成26年度のSSH課題研究中間発表会が、11/5(水)、本校講堂で開催されました。今回の中間発表会は、これまでの活動の内容を整理して発表する活動や他者からの指摘を通じて、来年2月の課題研究発表会に向けて取り組むべき課題を明確にし、研究を一層発展させると同時に、ポスターセッション形式の発表を通じて、グローバル・スタンダード8つの力のうちペリフェラルの力(交流する力、発表する力、質問する力、議論する力)を強化することが主な目的でした。各課題研究班は、計6回のポスターセッションのうち2～3回のプレゼンテーションを行いました。この発表会には、総合理学科3年生や他校の先生方の参加もあり、活発な質疑応答が行われました。その後の研究発表に関する研究協議会では、サイエンスアドバイザーの先生方から、有益かつ今後につながるアドバイスを多数いただきました。



課題研究一覧

- 1 Distribution Of Fractal～破壊のシミュレーションとヤング図形による考察～
発表生徒:荒牧孝洋、岡村みのり、金田和子、下村 侃、鳥居真人、平林大輝、宮本悠史
指導教員 松下 稔
- 2 2次元の被写体と視点との関係を考える
発表生徒:齊藤玲央、向 麻里、森野はるか
指導教員 大槻 英行
- 3 色と単語とそれから脳波
発表生徒:楠本晴樹、竹内悠貴、田中達宏、田邊和香菜、新原 茜、松本瑠子
指導教員 長坂 賢司
- 4 パラメトリックスピーカーの性能向上及びその実践
発表生徒:鈴木亮太郎、金森 凱、上田颯都
指導教員 大嶋 洋平
- 5 環境要因の変化と土砂災害の発生の相関
発表生徒:清水光希、林 航平、森健太郎、松浦峻大
指導教員 大嶋 洋平
- 6 地衣類と抗生物質についての研究
発表生徒:赤坂貴浩、河合真央、合田元英、齊藤良典、里井俊太
指導教員 中澤 克行
- 7 魚類の成長に及ぼす餌の種類について
発表生徒:大瀧建也、奥門祥史、鷲見 信
指導教員 矢頭 卓児
- 8 マイマイ属の外部形態による同定は正確か？
～神戸を模式産地とする陸貝のミトコンドリア系統解析～
発表生徒:飛鳥未歩、桐谷茉那、桐谷有香、土田仁美、前田聖和
指導教員 繁戸 克彦
- 9 加熱によるビタミンC量の変化
発表生徒:尾崎範代、中西桃子
指導教員 森 和代
- 10 野菜や植物でカビの繁殖を抑制
発表生徒:磯 風紗、司馬 穎
指導教員 森 和代

●平成27年度 シンガポール(Raffles Institution)研修旅行募集について

シンガポール(Raffles Institution) 研修旅行(概略)

- 1 募集人数: 10名
- 2 派遣期間: 平成27年7月下旬～8月上旬(予定)
- 3 内 容: ラッフルズ・インスティテューションでの授業参加、研究発表による交流、科学的な内容に関する討論、生徒宅でのホームステイ、シンガポール見学など。
- 4 参加費用: 実費12万円程度ですが、国際交流基金委員会より約2割を補助する予定です。
(ただし、パスポート取得、旅行保険等は別途自己負担)
- 6 応募方法: 事前説明会で配布された応募用紙(2種類)を、**11月7日(金)16:40までに**担任の先生へ提出して下さい。
- 7 校内選考: **筆記:11月12日(水) 面接:11月21日(金)**
- 8 選考基準: 国際交流、特にシンガポール(ラッフルズ校)との交流と親善に意欲的、協力的であり、プレゼンテーションや討論に必要な基本的な英語運用能力を有することが望ましい。

神戸高校創立100周年関連事業として平成9年に国際交流基金が設立され、シンガポールの Raffles Junior College(当時の学校名)との姉妹校提携が結ばれて以来、毎年続けられてきた相互交流が、諸般の事情により一時中断、その後国際交流基金委員会、総合理学部を始め多くの方々のご尽力により、昨年度より本格的に再開されました。本格的再開2年目となる平成26年度のラッフルズへの姉妹校訪問は、7月30日(水)～8月4日(月)[6泊7日]の日程で実施されました。研修団は、生徒10名(男子3名 女子7名 全員2年生)と引率教員2名の総勢12名でした。今年度の姉妹



校訪問は、「国際的視野の育成」「コミュニケーション能力の向上」「異文化体験による異文化理解」といった従来型の目的をベースに置きながら、総合理学部との協働により、「科学的な内容での交流を深める」ことに重点を置いて企画、計画、そして実施されました。化学の実験、水資源(水不足)というシンガポールの資源問題をフィールドワークによって体験し討論する、といったプログラムに全員が積極的に関わりました。また、総合理学科から参加した3名の生徒は、一年生の時にサイエンス入門および科学英語で作成した研究成果を、パワーポイントを使いながら英語でプレゼンテーションしました。研修期間はわずかでしたが、ホームステイ先での貴重な経験を含めれば、参加生徒にとってはこの上なく有意義かつ学び多き七日間ではなかったかと思います。

さて、平成27年度のシンガポール研修旅行の生徒募集が始まっています。すでに事前説明会(10/31)も終わり、上記の通り応募用紙の提出期限が目前に迫っています。来年度の Raffles Institution との交流(内容)も、今年度同様、科学的な要素が強いものであることは事前説明会で説明しました。みなさんの中には、迷ったり、躊躇している人もいるかと思いますが、ぜひ一歩踏み出す勇氣を持ち、英語を通じて科学的なアプローチをするべく多くの方が参加してくれることを願っています。

言葉の壁と友達の壁

2年9組 向 麻里

案ずるより産むが易し。今回の研修で、この言葉の真意を身をもって経験しました。

シンガポール研修に参加できると決定した時、喜びと同時に様々な不安が押し寄せてきました。バディとのメールのやり取りでも、向こうからは15分でメールが来るのにこちらは1通返すのに1時間かかるのです。英会話がうまくできずホストファミリーにも呆れられるのではないかと…。

しかし、現地に行ってもその不安は一拭されました。ホストファミリーの皆さんはとても暖かい家族でした。日本の家族について聞かれたり、シンガポールやホストファミリーのことを教えてくれたり…。何回聞き返しても笑顔で対応してくれるし、私がたどたどしく話しても真剣に聞いてくれました。詳しい会話の内容は分からない部分もありましたが、仲の良い家族の一員として迎えてくださりうれしかったです。バディの Jonathan はとても親切で優しく、楽しく話しながらも私が困らないよう気遣ってくれるジェントルマンでした。1週間の間、頭をフル回転させながら楽しくバディと会話し、ときにはふざけて写真を撮ったこともいい思い出です。時の経つのが早く、帰国の際には寂しくて別れが辛かったです。帰国後もメールのやり取りをしていますが、英語での会話を楽しんでいる自分がいることに驚きます。

やってみたくは不安や困難に思ってしまう。こんな状況にこれからの人生で出会ったなら、私は全力でチャレンジすることを誓います。それが、この研修に携わってくださったかたへの感謝の意になると信じます。